

県指定文化財<天然記念物>

しょうかんじ くす
正観寺の樟

指定日 昭和38年7月23日

所在地 菊池市隈府 正観寺



15代武光の菩提寺である熊耳山正観寺の西北隅にある大木である。

樹高34m、根回り10.5m、目通り幹囲7.5mで、樹齢は約600年と推定されている。主幹は地上10mのところで4本に分かれ、更に枝を大きく四方に張り出している。

幹が赤みを帯びているため、少し離れてみるとアカマツと錯覚するほどである。西側の枝は台風のために折れ、北側の枝の先端は温泉築造の際に切られているが、樹勢は盛んであり樟の字の如く南方から渡来した木らしい元気さがある。

このクスノキは、15代武光の「墓木」と称せられ、墓標として植えられたものと言い伝えられる。樹下には天明2年(1782)、渋江紫陽、松石や宗伝次らによって建てられた武光の墓碑「正観公神道碑」が建っている。